平成25年度　第1回　鶴岡市立藤沢周平記念館運営委員会（会議概要）

○日　時　　平成25年4月15日（月）午後2時15分～4時20分
○会　場　　東京第一ホテル鶴岡
○審議事項　1　協議
　（1）第5回企画展について
　　①企画展名について
　　②展示構成について
　（2）後期企画展について
　（3）その他
○出席委員
遠藤崇寿、遠藤展子、湯川　豊、鈴木文彦、栗原正哉、犬塚幹士、東山昭子、髙山邦雄、堀　司朗
○欠席委員
なし
○市側出席職員
教育委員会教育部長　山口　朗、教育委員会社会教育課長　加藤　保、
教育委員会藤沢周平記念館長　鈴木　晃、同館主査　三浦真紀、同館専門員　進藤恵理也、同館専門員　成澤万寿美、同館主任学芸員　小林愛恵
○その他出席者
高橋吉弘、穴澤　亮、吉野文子（展示制作支援業務受託者）
○公開・非公開の別　　非公開
○非公開の理由　　顕彰する個人の情報を含むため

○協議事項

（1）第5回企画展について
　① 企画展名について
　◆内容
　〈「藤沢周平と浮世絵」の世界〉を提案
　◆意見など
　・これまでの企画展の流れに従って〈「藤沢周平と浮世絵」の世界〉としたと思うが、意図がよくわからないので、「藤沢周平と浮世絵」または「藤沢周平と浮世絵の世界」にしたらどうか。
　・今後のことを考えると「世界」にこだわらなくても良い。
　◆協議結果
　・これまでの企画展示に倣い「○○の世界」という名称で提案をしたが、「○○の世界」に拘らず、企画展の監修を依頼した鈴木委員と再考し、決定することとする。
　② 展示構成について
　◆内容
　　導入「物書きの目～絵から人間の呼吸を感じとる～」

第１部　遊び心と緊張感～自ら創作にあたってのハードルを高める～
第２部　わからないことに対する興味～自分なりの読み方で絵師の実像に迫る～
第３部　錦絵の面白さ～浮世絵の美と魅力を探る～
以上の展示構成について提案

◆主な意見

・江戸時代には「出版社」「編集者」というものはない。言葉の使い方には注意する。
・導入部分に「物書きの眼」という表現があるが、「物書き」とは、作家が自分を謙遜して使う言葉であり、タイトルとしては相応しくない。「作家の眼」若しくは「小説家の眼」が正しい表現。
・「第２部　わからないことに対する興味」は、藤沢先生のエッセイからの引用と思うが、わかりにくい。先生は「浮世絵師というのは謎の存在である。」と何度も書かれている。こういうところからとるべき。「浮世絵師の謎」とか。わからないことに対する興味を使うのであれば、藤沢先生の台詞として「　」でくくる。
・江戸時代の本の成り立ちについては誤解のないように第３部できちんと説明する。当時の出版物は版木一枚彫りの木版画による印刷物であること、浮世絵は多色刷りであることを詳しく知ってもらう。
・『江戸おんな絵姿十二景』は読んでみると題材とした絵が見たくなる。インスピレーションの始まりだから見たくなる。図録には使用権の問題は生じるかもしれないが、題材とした浮世絵を全部載せてほしい。出来れば展示にも。
・藤沢先生が、最初から最後まで浮世絵を扱った作品を書いていたことを巻頭言に書く。
・浮世絵全般に関心を持っていたことを伝えて欲しい。刷り上った絵、絵描き、浮世絵師、彫師にも。彫師を扱った作品も沢山ある。
・藤沢先生と浮世絵といったテーマで考える場合、作品には浮世絵師に重点を置いたものと、浮世絵から触発されて書いた作品の二つのテーマが内在していると思う。この二つを併せた展示には難しさがある。
・壁面ケース全てを使って浮世絵を見せたいところだが、浮世絵を題材とした作品の自筆原稿も併せて展示するには、覗きケースの方が適していることから、覗きケースのところに浮世絵のパネルを配置する展示案は理解できる。
・周囲に浮世絵が好きな人はたくさんいる。「浮世絵」の方だけに興味がいくのではなく、藤沢先生の描いた浮世絵の世界がしっかり伝わる展示にしてほしい。
・１回の展示で全てを見せるには無理がある。時期を見てやりきれなかった部分を再度やっても良いと思う。

◆協議結果

・提示構成案を承認する。
・広重の浮世絵を題材とした作品については、ミニギャラリーで展示する。
・第３部において浮世絵の実物（復刻版）１枚は展示する方向で検討する。

（２）後期企画展示について

①テーマについて

◆内容

・後期展示（期間：平成25年12月20日～平成26年6月3日）については、現在開催中の特別展示と同様に、地元資料を主とした展示を企画し、食をテーマとした「懐かしい味」（仮題）を提案。

◆主な意見等

・「食」は庄内藩最大の特徴であり酒井藩を成り立たせていたものである。「懐かしい味」というテーマは、やりようによっては一番来客が見込めると思うので、小さな企画ということではなく、写真や物の展開を本気でやった方が良い。

・２年間、江戸川で、鶴岡の伝統料理の講習会を実施したところ好評であった。毎年秋に首都圏で開催される各高校の同窓会や東京事務所事業などと連携をとり、情報発信力を高めることで、冬場に来鶴される方が増えると良い。

・記念館が直接（調理提供など）することはできないかもしれないが、来館者は見たり読んだりするだけでなく味わいたいと思う。料理を提供する店との連携なども考えた方が良い。

・展示の際、料理食器（武士が使っていたもの、庶民のもの、箱膳など様々）なども入れるとボリュームが出てくる。

・藤沢先生のファンは、食べ物に関心がある。作品の中でも、肝心なところは料理とともに語られているものがあるので、料理や食材が展示できるように創意工夫し、守勢に回らずアグレッシブに考えるべき。

◆協議結果

・後期展示は「食」をテーマとする。

・写真だけでなく、料理、素材も展示・提供できる工夫も考えながら、展示構成を練る。

（３） その他

①来館記念スタンプについて（報告）

◆内容

・藤沢先生の愛用の刀の鍔の文鎮をモチーフにした、シャチハタタイプのスタンプを作製した。ＧＷ前には配置したい。

◆意見等

とくになし

②運営状況について（報告）

◆内容

・平成24年度入館者数３５，５６２人（23年度：４８，３５２人）

・冬季間は、寒波が続き度々JRや飛行機に運休があり、客足に影響があった。

・書籍、著作本、図録の販売数は前年度を上回った。

◆意見等

・他施設と入館者数の比較をするときは、館の成り立ち、客層を考慮して、作家の記念館、文学館等と比較するように。